

学習内容報告書 フォーマット

学校名	札幌市立東白石小学校
授業者	5 学年担任 成田 慶輔 齊藤 正太

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

サーモンプロジェクト

1-2. 学年

5 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習

1-4. 単元の概要

4 月	総合	さけ放流式 東白石小学校のサケ学習(サーモンプロジェクトの導入)
6～7 月	総合	サーモンプロジェクト①(調べ学習→新聞)
6 月	理科	メダカの誕生
8 月	社会	水産業のさかんな地域
10 月	総合	授精式(さけ科学館にて)、さけ科学館見学
11 月	総合	さけ遡上観察(豊平川東橋付近)
12 月	総合	サーモンプロジェクト②(グループによるまとめ)
1 月～	総合・学活	川のパネル展出展(札幌市下水道河川局河川事業課)
2 月	道徳	「同じでちがう」【生命の尊さ】
2 月	総合	サーモンプロジェクト③ (さけ学習のまとめ・4 年生への発表準備)
2 月	総合	4 年生への発表
4 月(予定)	総合	さけの赤ちゃん壮行会(全校への発表) さけ放流式

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本学習は、全校で取り組んでいるさけ学習のうち、第 5 学年での取組に重点を置いている。総合的な学習の時間を中心に、さけの命について学びを深め、自分の命、みんなの命へと発展させ「生命の尊さ」を学ぶ。また、「環境から学ぶ・環境について学ぶ・環境のために学ぶ」という 3 段階で、身の回りの生活環境・川・海へと視野を広げるとともに、本校のさけ学習の歴史や放流に対する社会情勢の変化等を学び、幅広い視点から物事を捉え、思考・判断できる子どもを育成していく。大きな取組の柱は「放流→遡上観察→授精→飼育→放流」という一連の活動である。この活動を通し「生命の尊さ」や「自然の大切さ」、「歴史を学び未来を創る」ことを学んでいく。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

自分の興味・関心に基づき課題を設定し、その課題に関して主体的に追求活動を行う態度を育む。

1-7. 単元の展開（全 52 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
8	サーモンプロジェクト① 【サケについて知ろう】 ・学校に伝わるさけ学習のスライドを見て、サケの生態や成長に興味をもつ ・サケについて図書やインターネットを使って調べたことをもとに課題を見付ける	(評価) ・意欲をもって調べることで、自分なりの課題を見付けようとしている (観察・学習カード)
12	サーモンプロジェクト① 【伝えることをまとめよう】 ・様々な方法で自分の課題を解決するために調べる ・調べたことをもとにして、自分の考えをまとめる ・調べて分かったことを新聞にまとめる	(評価) ・調べたことを、図や写真、資料を使ってまとめる ことができている (サケ自分新聞)
10	サーモンプロジェクト① 【学んだことを伝えよう】 ・調べたことを発表するために、リハーサルを行う ・自分が課題をもって調べたことを友達に発表をする ・自分の発表についてふりかえりをする	(評価) ・調べたことを、図や写真、資料を使ってまとめることができている (サケ自分新聞)
12	サーモンプロジェクト② 【サケについてくわしく知ろう】 ・豊平川にサケが遡上している様子を観察する ・サケ授精式に取り組む	(外部連携) ・札幌豊平川さけ科学館 →さけ科学館見学・さけ授精体験 (11月) →さけ遡上観察 (11月) さけ放流 (R2年4月の予定)
10	サーモンプロジェクト③ 【サケの赤ちゃんを育てて、その成長を知らせよう】 ・これまで学んだことを生かして、サケの飼育を行う ・川の学習パネル展への出展 ・サケの成長とともに、今まで調べたことを全校に発表する	・札幌市下水道河川局 →川の学習パネル展に出展 (1月) (評価) ・調べたことを、グループの仲間と協力して図や写真、資料を使ってまとめることができている ・保護者や4年生に向けて、自分たちの調べたことを分かりやすく発表することができる ★サケ新聞発表会→保護者参観日 →4年生との交流会

--	--	--

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 5 2 時間中の 40~45 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- さけを育てる活動を通して、命の大切さや命のつながりについて気付き、愛情をもって育てることができる。
- サケの生態を知り、遡上観察をすることを通して、身近な川（豊平川）と広大な海洋とのつながりを実感することができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">さけについて知ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ さけについて聞きたいことや知りたいことを書き出す <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">遡上観察へ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ さけが遡上している様子を見たり、さけ科学館の方に話を聞いたり質問したりする <div style="border: 3px double black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">遡上するサケの力強さが分かったよ</div> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">さけの授精をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授精式に向けて必要な準備をする <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">たくさん授精できるように準備しよう</p> </div>	<p>関係機関と連絡調整を行う。</p> <p>● 札幌豊平川 さけ科学館 (011-582-7555)</p> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さけ遡上に対して、意欲的に観察をすることができる。 ・ さけ遡上観察を通して、さけの力強さや生命のつながりに関しての思いを学習シートに表している。(学習シート) <p>※ さけ学習館のポンプ故障のため、授精式をさけ科学館で行いました。さけ科学館の館内を見学させていただきました。</p>

授精式

- 授精式を振り返り、「何を感じたのか」「何を疑問に思ったのか」感想を書く。
- 感想を交流する。

命の大切さがわかったよ。元気なさけを育てたいな。

(評価)

- ・ さけ授精式に対して、意欲的に観察をすることができる。
- ・ さけ授精式を通して、生命の誕生に対する感想を書くことができる。(学習シート)

3. 今回の活動の自己評価

今年度は、『予めサケに関する知識を身に付ける→体験学習を通して命の尊さや生命の不思議さ、力強さを実感する→校外外に向けて学習の成果を発信する』という1年を通じた学習活動を行ってきた。図書やインターネットを利用して興味をもち、自分の課題を設定することとした。それをもとに探究活動を進め、調べたことを新聞にまとめた。

2学期からは、豊平川さけ科学館の協力により、さけ科学館で展示の見学をするだけでなく、授精式を行うことができた。そこで、様々な資料を見たり、科学館の方のお話を聞いたりすることでサケの命の尊さやはかなさ、命の生まれる瞬間に立ち会う感動を覚えることができた。また、さけ遡上観察では、札幌市民にとって身近である豊平川に遡上するさけの姿を実際に見たり触ったりしてサケを身近に感じるとともに、広大な海を旅して戻ってきたサケのボロボロになったからだを見て、その逞しさを学ぶことができた。

その後、東白石小学校のさけ学習の取組をまとめるだけでなく、その歴史や豊平川のカムバックサーモン運動について、さけの一生を通して海での生活や川での生活、環境について再調査し、まとめた。また、札幌市で推進されているワイルドサーモンプロジェクトの活動にも目を向け、放流が生態系に及ぼす影響について知り、自然環境への関心をもつことができた。

札幌の地下歩行空間で成果物が展示される「川の学習パネル展」をはじめ、学校の地域・保護者公開日における成果物の発表を通して、市民・地域・保護者に学習を発表する機会を設けることができた。また、学習のまとめとして、次年度学習を引き継ぐ4年生への学習発表も行い、学校全体を通してさけ学習を継承していこうと活動することができた。

4. 今後の課題

今年度も、学校行事で日程が厳しかったため、フィールドワークや千歳学習館のバックヤード見学などの体験的な活動は行えなかった。そのため、川と海とのつながりを体感することはできなかった。さらに、さけ学習館施設が故障しているため、飼育・観察などの実際にさけにふれる活動も十分とは言えなかった。さけ学習を通して生命の素晴らしさを実感しにくい環境になった時に、どのように子どもに生命の素晴らしさを体験させることができるかが今後の課題になると感じた。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。